

3.1. 現状分析

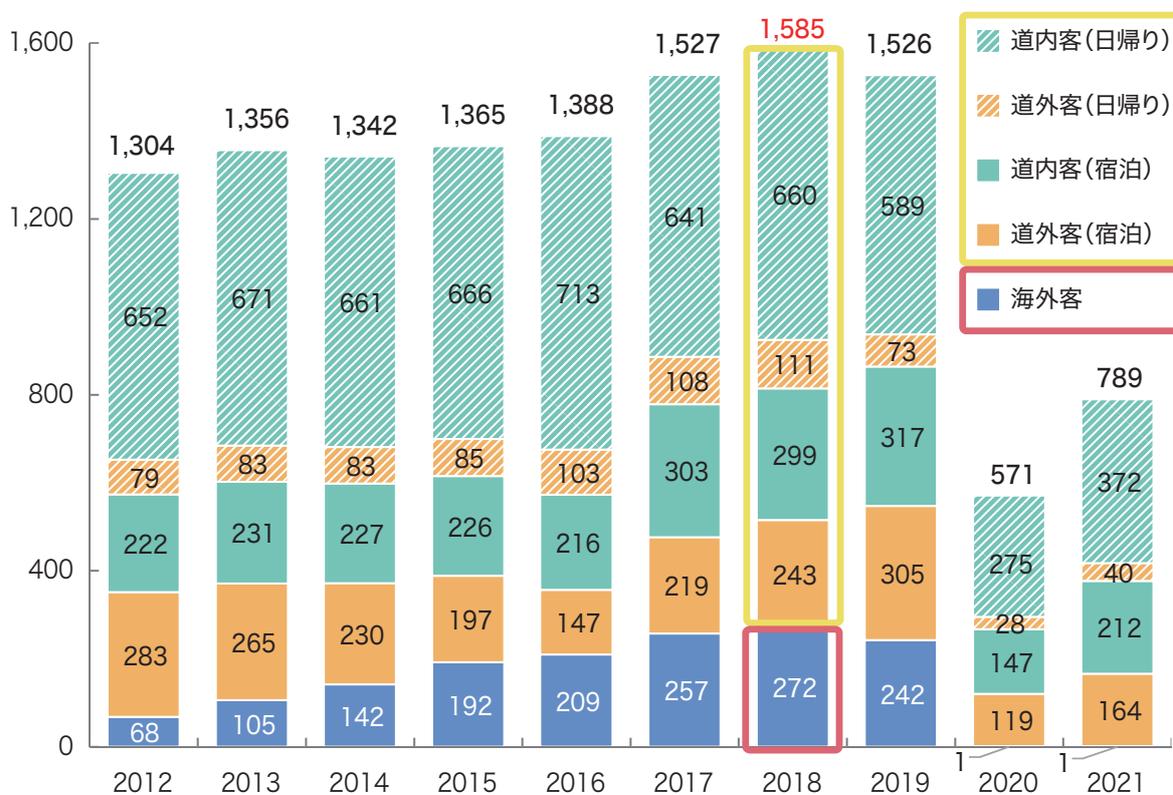
本プランの作成にあたり、観光・MICE¹を取り巻く情勢や札幌観光の統計・評価等の現状分析を行いました。詳細は資料編に記載していますが、ここでは、主なものを取り上げます。

① 観光入込客数と総観光消費額

観光入込客数のピークはコロナ禍前の 2018 年度で、国内客が約8割を占めています。一方、総観光消費額では、観光消費額単価の高い海外客が約5割を占めています。

札幌市における観光消費額単価は、国内客は横ばい、海外客は低下傾向であり、総観光消費額の増加に向けては、高付加価値化や滞在日数の長期化等による観光消費額単価向上に向けた取組が求められます。また、今後の国内人口の減少も見据えると、観光消費額単価の高い海外客の誘致がこれまで以上に重要になります。

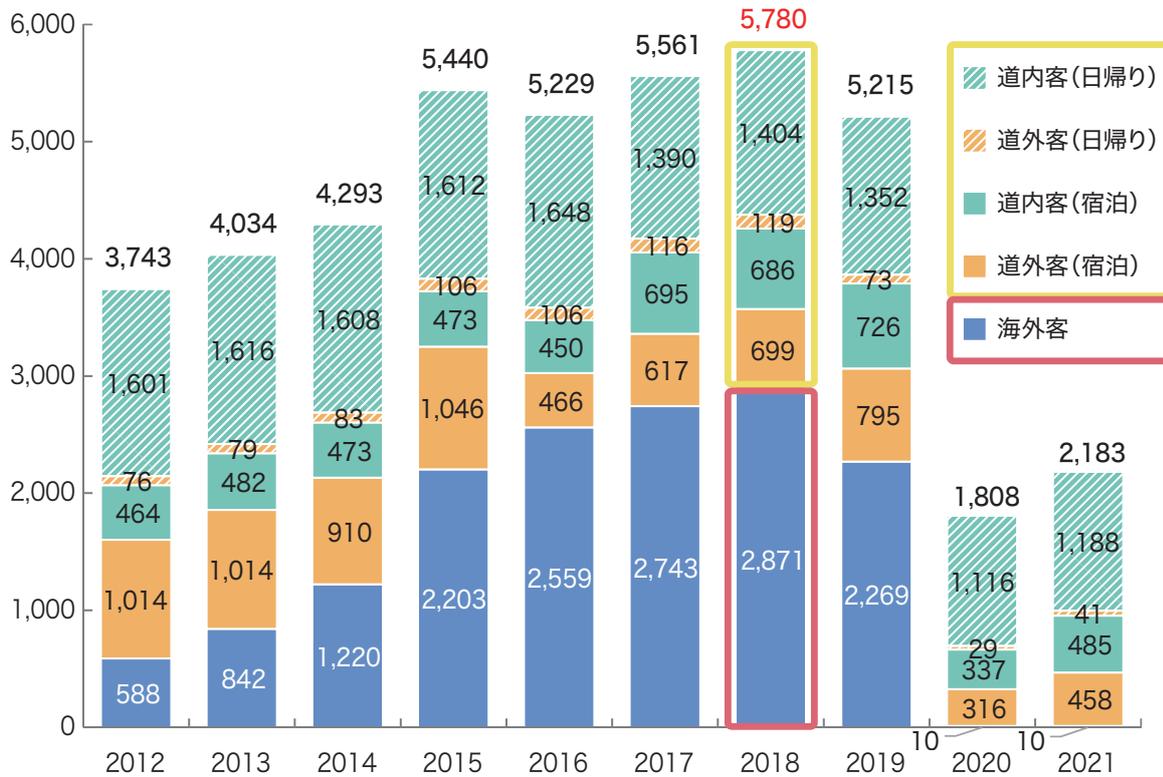
図表 3 | 観光入込客数の年次推移 (万人)



出所) 札幌市「札幌の観光」、札幌市資料

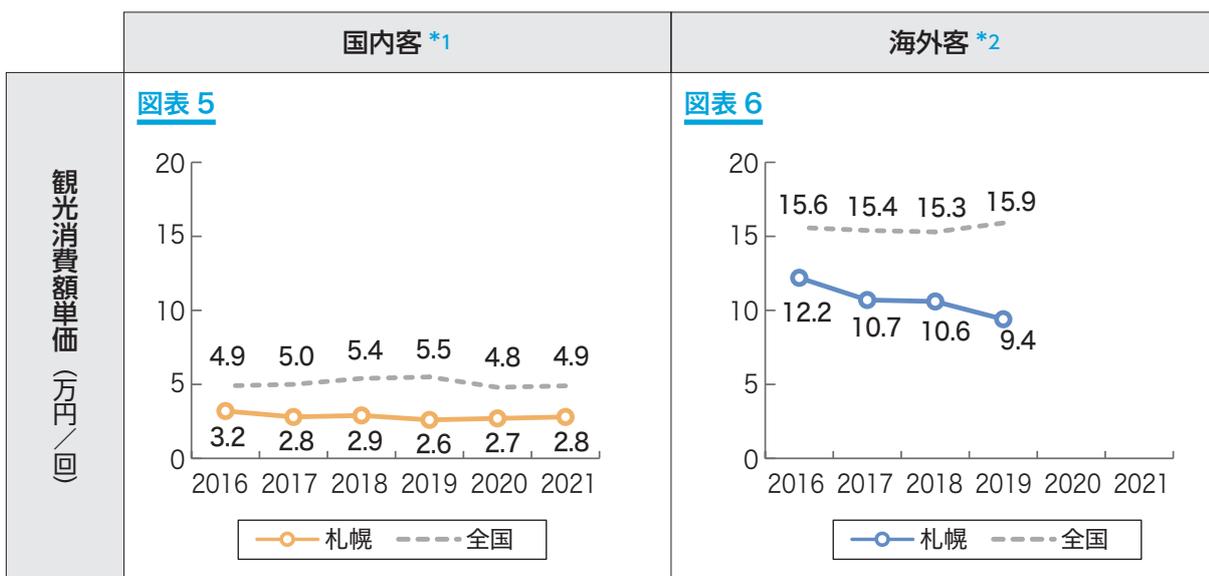
¹ MICE：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting（会議・セミナー）、Incentive tour（企業報奨・研修旅行）、Convention（国際会議・学会・大会）、Exhibition（展示会・イベント・見本市）の頭文字を取ったもの。

図表 4 | 総観光消費額の推移 (億円)



注記 * : 道内客 (日帰り) には市民客等を含む
出所) 札幌市資料

●観光消費額単価の推移 (万円 / 回)



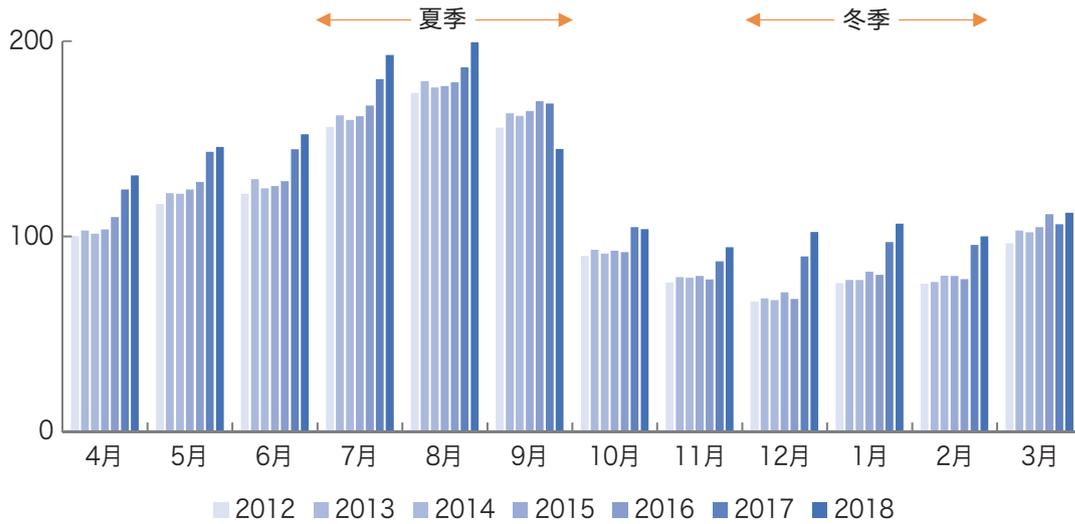
注記 *1 : 全国は日本人宿泊旅行の値、札幌は道外宿泊客の値
*2 : 令和 2 年度 (2020 年度) 以降、全国の値は新型コロナウイルス感染症の影響により試算値であるため除外、札幌の値は、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし
出所) 札幌市資料、観光庁「旅行・観光消費動向調査」※暦年、JNTO「日本の観光統計データ」※暦年

② 繁閑差

観光入込客数は夏季が多く冬季が少なくなっています。事業者の経営・雇用の安定化、今後の成長のためには繁閑差の縮小が重要であり、冬季の需要の底上げに向けた取組が必要です。

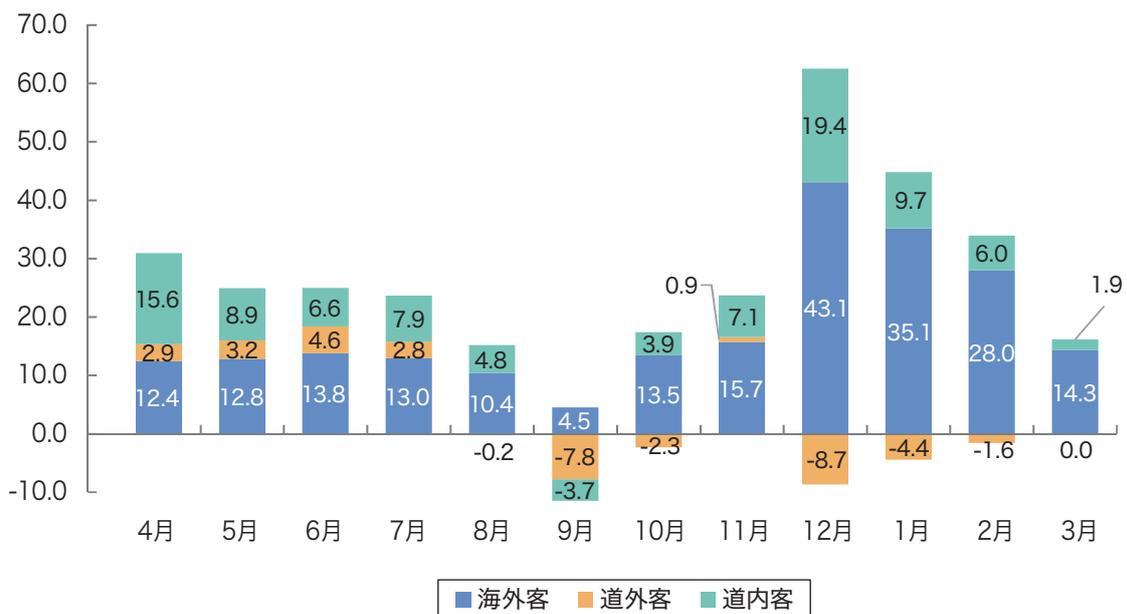
なお、コロナ禍以前は冬季の海外客の伸びが大きく、繁閑差の緩和につながっていたと考えられます。

図表 7 | 来札観光入込客数の月次推移 (万人)



出所) 札幌市「札幌の観光」

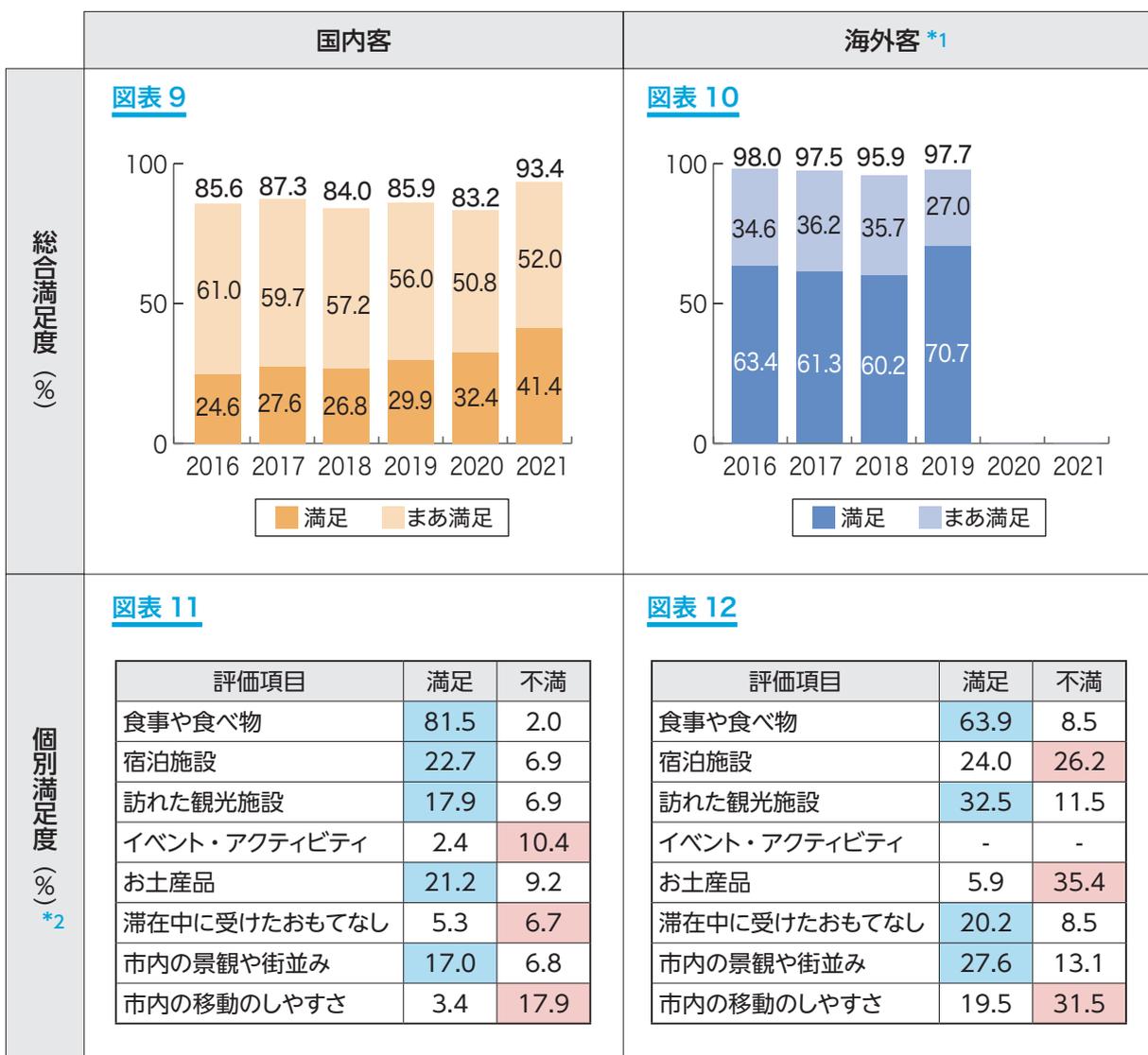
図表 8 | 月別の観光入込客数の増減率の内訳 (%) *



注記) *: 平成 24 年度 (2012 年度) に対する平成 30 年度 (2018 年度) の増減率
出所) 札幌市「札幌の観光」を加工

③ 観光客の評価

総合満足度は高い水準にあると考えられますが、個別満足度では不満の割合の方が高い項目があり、要因を分析するとともに、改善に向けた取組が必要です。



注記) *1: 海外客は、令和2年度(2020年度)以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査なし

*2: 個別満足度は令和3年度(2021年度)の調査結果

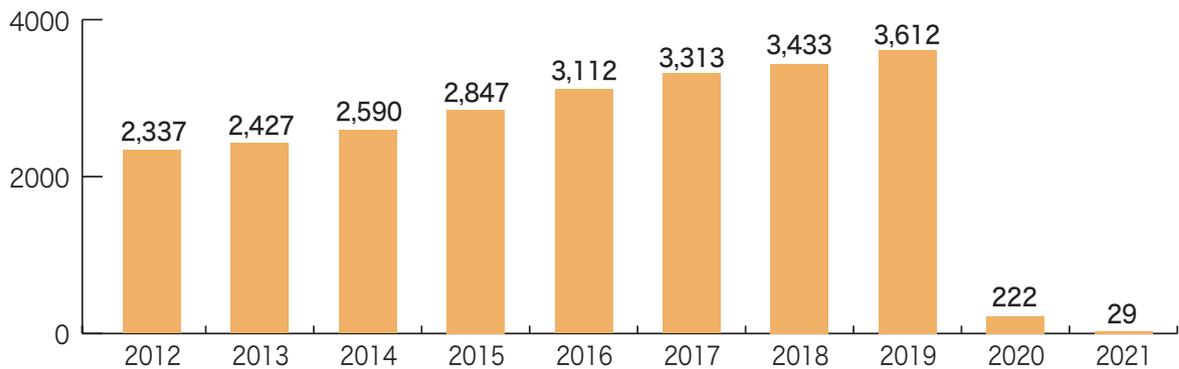
出所) 札幌市「平成28年度(2016年度)～令和3年度(2021年度)来札観光客満足度調査」、「平成28年度(2016年度)～令和元年度(2019年度)外国人個人観光客動態調査」

④ MICE

国際会議は、コロナ禍以前は国内の開催件数が順調に増加していました。一方、国内での誘致競争が激化しており、札幌市の開催件数は平成 29 年（2017 年）がピークになっています。

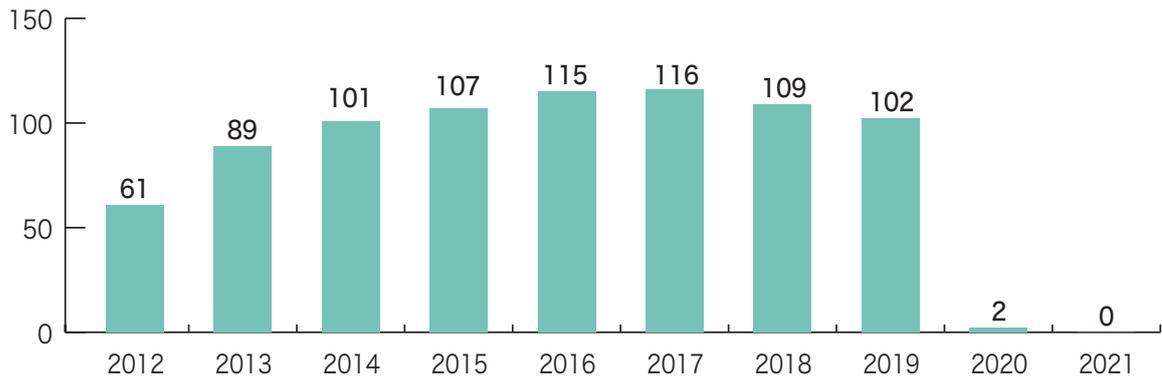
多くの集客が見込め、参加者一人当たりの消費額が大きい傾向のある MICE は、高い経済効果を生み出すとともに、国際的な都市ブランドの向上等が期待されます。本市では、令和 5 年（2023 年）4 月に「G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」が開催されており、こうした大規模な政府系国際会議の受け入れ実績等も生かし、積極的に MICE 誘致に取り組んでいく必要があります。

図表 13 | 国内の国際会議の開催件数（件）【JNTO 基準²】※暦年



出所) JNTO「2021 年国際会議統計」

図表 14 | 札幌市の国際会議の開催件数（件）【JNTO 基準】※暦年



出所) JNTO「2021 年国際会議統計」

² JNTO 基準：日本政府観光局（JNTO）による国際会議の選定基準。下表の4条件を全て満たす会議を国際会議としている。

主催者に関する基準	国際機関・国際団体（各国支部を含む）または国家機関・国内団体（民間企業以外）
参加者総数	50 名以上
参加国	日本を含む 3 か国以上
開催期間	1 日以上

第 1 章
第 2 次札幌市観光まちづくり
プランの策定に当たって

第 2 章
将来ビジョン

第 3 章
現状分析

第 4 章
施策展開

第 5 章
成果指標

第 6 章
推進体制の
強化に向けて

資料編

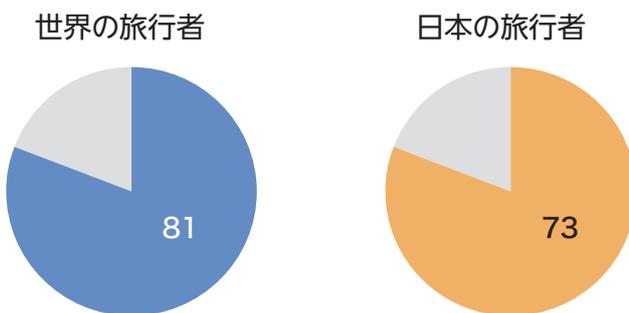
⑤ 持続可能な観光に対する意識の世界的な高まり

大手宿泊予約サイトによる調査では、日本を含む世界全体の旅行者（世界 32 カ国と地域にわたる 30,000 人以上）のうち約8割、日本の旅行者の約 7 割が「サステナブルな旅は自身にとって重要である」としており、持続可能な観光³に対する旅行者の意識が高まっていることが明らかになっています。

GSTC⁴は、持続可能な観光を推進するための基準として GSTC-D⁵を開発しています。これを受けて観光庁は、GSTC-D に準拠した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」⁶を開発しています。観光庁は、各地方自治体等が JSTS-D を活用することで、地域での多面的な現状把握を可能にし、継続的なモニタリングと証拠資料（エビデンス）に基づいた観光政策や計画の策定、それらに基づく持続可能な観光地マネジメントの促進を図っています。

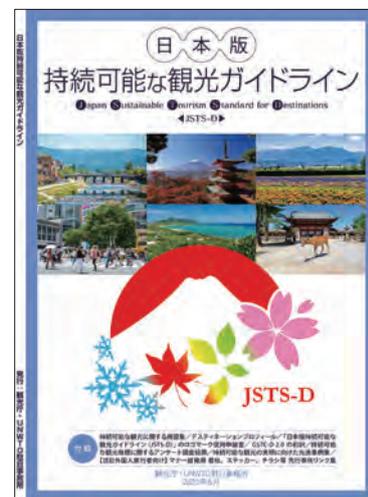
図表 15 | booking.com 調査

サステナブルな旅が自身にとって重要である割合（%）



出所) booking.com 「Sustainable Travel Report 2022」

図表 16 | JSTS-D



出所) 観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン」

³ **持続可能な観光**：訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光。

⁴ **GSTC**：Global Sustainable Tourism Council の略。世界的な旅行及び観光分野「における観光産業の専門家や、政府機関のための持続可能な開発の基準を定め、管理する国際非営利団体。

⁵ **GSTC-D**：GSTC Destination Criteria の略。国連で観光地が最低限遵守すべき項目として位置づけられた持続可能な観光地経営のための指標。

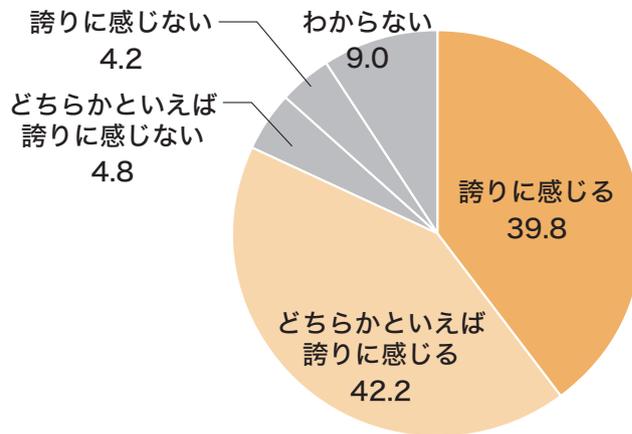
⁶ **JSTS-D**：Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations の略。JSTS-D は、「持続可能なマネジメント」、「社会経済のサステナビリティ」、「文化的サステナビリティ」、「環境のサステナビリティ」の 4 分野 174 項目からなる持続可能な観光地マネジメントを行うための支援ツール。観光政策や計画の策定に資するガイドラインとして活用する自己分析ツールの機能、地域が一体となって持続可能な観光地域づくりに取り組むためのコミュニケーションツールの機能、観光地域としてのブランド化・国際競争力の向上のためのプロモーションツールの機能を持つ。

⑥ 市民の観光に関する意識調査

約 8 割の市民が、札幌が観光地として評価されていることに誇りを感じている一方、札幌に多くの観光客が訪れることで自身にとって良い影響があると感じている市民は約 6 割にとどまり、市民の観光に対する理解や満足度が十分だとは言えません。

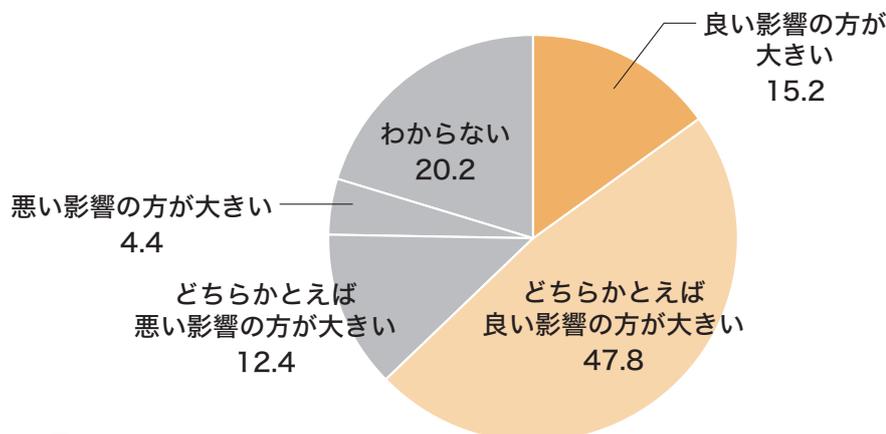
札幌市が観光に関する各種施策を推進するに当たっては、市民の観光に関する理解や満足度の向上が不可欠であり、近年では、オーバーツーリズムによる観光の負の影響が問題となる地域も多いことから、継続的に市民の観光に対する受け止め方を把握し、観光施策に反映していく必要があります。

図表 17 あなたは、札幌が観光地として評価されることを誇りに感じますか。次の中から1つお選びください。(%)



出所) 札幌市調査

図表 18 札幌に多くの観光客が訪れることは、あなたにとって良い影響と悪い影響のどちらが大きいですか。(%)



出所) 札幌市調査